

2020 年度（令和 2 年度）

自己評価報告書

2021 年（令和 3 年）8 月 6 日

学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校

目 次

1. 学校の現況	3
2. 評価の基本方針	6
3. 重点目標	7
4. 項目毎の記述	
(1) 教育理念・目標	9
(2) 学校運営	10
(3) 教育活動	11
(4) 学修成果	13
(5) 学生支援	14
(6) 教育環境	15
(7) 学生の受入れ募集	16
(8) 財務	17
(9) 法令等の遵守	18
(10) 社会貢献・地域貢献	19
(11) 国際交流	20

1. 学校の現況

(1) 設置者及び学校名

設置者	学校法人 東杜学園
学校名	国際マルチビジネス専門学校
代表者	理事長 野口 和江

(2) 所在地

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4丁目8番32号

(3) 沿革

1949年 6月	「宮城県経理友の会」会長 野口一郎（仙台商工会議所内に設置）
1951年 4月	東北経理実務学校創立 開校（設置者 野口会計受託株式会社） 「校章」「校訓～五常訓（健康・誠実・節約・信義・研鑽）」制定
1953年 2月	（学校設置者変更認可）財団法人 東北経理実務学園
1956年 9月	創立5周年記念式典「校旗」「校歌」制定
1961年 4月	創立10周年記念式典
1963年 7月	（学校法人変更認可）学校法人 東北経理実務学園
1971年 9月	創立20周年記念式典
1973年 10月	（校名変更認可）東北経理専門学校

1976年 3月 学校法人 東北経理学園 専修学校制度施行・昇格認可

1981年 10月 創立 30 周年記念式典

1991年 10月 創立 40 周年記念式典

1994年 3月 (校名変更認可) 東北情報経理専門学校

1997年 3月 新校舎落成

1997年 4月 (法人名・校名変更認可) 学校法人 東杜学園

国際マルチビジネス専門学校 開校

現在に至る

(4) 学科編成

①商業実務専門課程 昼間部 2年制

- ・ 国際観光学科
 - トラベル専攻
 - エアポートビジネス専攻
 - トラベル外国語専攻
- ・ 国際ホテル学科
 - ホテル専攻
 - 料飲サービス専攻
 - ホテル外国語専攻
- ・ ブライダルビジネス学科
 - ブライダル専攻
 - ブライダルスタイリスト専攻
- ・ 販売ビジネス学科
 - ショップビジネス専攻
 - ファッションビジネス専攻
 - ビジネス外国語専攻
- ・ 総合英語学科 2年コース
- ・ 日本語ビジネス学科

②商業実務専門課程 昼間部 1年制

- ・ 国際観光学科 トラベルキャリア専攻
- ・ 国際ホテル学科 ホテルキャリア専攻
- ・ ブライダルビジネス学科 ブライダルキャリア専攻
- ・ 販売ビジネス学科 ビジネスキャリア専攻
- ・ 総合英語学科 1年コース/英語キャリア専攻

③商業実務専門課程 夜間部 2年制

- ・ 国際ホテル学科 夜間部

(5) 学生数及び教職員数

在校生数 192名 (2020年4月1日現在)

教職員数 67名 (2020年4月1日現在)

(6) 学園理念

多様な価値観を理解し、多数の情報源を有する機動力と行動力を持った人材を育成し、国際・地域社会に貢献できる有益な人材を育成する

2. 評価の基本方針

- (1) 実践的な職業教育を行う教育機関としての責務、及び関係業界等のニーズに迅速且つ的確に対応し得る波及力、以上2つの視点について客観的な検証と評価を行う。

- (2) 評価については、定性的かつ定量的なデータを基に信頼性と妥当性のある結果の確保に努めるとともに、学園理念及び教育基本方針との照合を実施し、より質の高い職業教育が可能となるよう、学校運営の組織的かつ継続的な改善を図る。

- (3) 客観的且つ多面的な自己評価を実施することで、学校運営の更なる改善に努めることはもちろんのこと、実践的な職業教育の水準向上に努め、地域社会及び国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。

3. 重点目標

(1) 重点項目

職業人前教育を担う教育機関としての専門学校的位置付け及び特色を意識し、時代を問わず社会より普遍的に求められる「専門性」・「社会性」・「人間性」・「国際性」の4点の育成を目指す。

上記を達成する上で、以下4点の支柱を明示する。

- ①学生の積極的な学修参加
- ②退学の防止
- ③就職率ならびに進路決定率の維持と向上
- ④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

(2) 取組状況・成果

①学生の積極的な学習参加

認定5学科全てにおいて、立案から実施までの工程を学生が担当する実習制度を導入している。社会人として必要とされる「課題発見能力」及び「課題解決能力」の育成を主眼とするのみならず、課題遂行上不可欠となる「コミュニケーション能力」の向上など、「社会性」を学修する場ともなっている。

②退学の防止

オープンキャンパス等において、専門学校の特長、教育理念、就職実績、そして学生納付金等について、細部に渡る説明を実施し、入学前のミスマッチの防止に努めている。

また、担任制の導入により、入学後に定期的な個人面談を実施。さらに、定期的な出欠率の確認と指導を徹底することで、学生の個別性の把握に努めている。

一方で、進路変更等が生じた場合は、休学及び転科を視野に入れた指導を実践することで、退学の防止に努めている。

③就職率ならびに進路決定率の維持と向上

求人数の増加、早期からのキャリア教育、そして就職支援担当ならびに各担任のきめ細かな指導が功を奏し、2019年度日本人学生の就職率は、98.4%となった。外国人留学生においては、今年度も就職内定率は100%となった。

④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

年々深刻さを増す18歳人口の減少に加えて特出すべき事項の1つに、外国人留学生の増加がある。また、「語学力」を採用の絶対条件とする企業が増え続けている。社会に求められる人材の育成を担う教育機関として、外国語教育の拡充と外国人留学生の受入れ体制の確立は、より一層重要度を増している。

2017年度に新設された「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科」では、語学力を生かした分野での活躍が期待される。

(3) 今後の課題

①人間教育の更なる充実

日々刻々と変化する社会情勢の中で、若年者を取り巻く環境は大きな変化を遂げている。学習環境はもちろんのこと、他者との結びつきや家族関係においても、世代間で大きな違いが存在する。

しかしながら、いつの時代も求められる資質の1つに、「コミュニケーション能力」があげられる。自己表現力や傾聴力等の基礎的な能力はもちろんのこと、「ホスピタリティ精神」、そして臆に代表される「社会人としてのマナー」、これら2つの要素を習得でき得る人間教育の更なる充実は、今後も大きな課題となる。

②外国人留学生の学修及び生活指導のシステム構築

外国人留学生の受入れ及び教育にとって、「日本語力」、そして「外部との連携」は重要な項目といえる。日本語力向上のためのカリキュラム、そして日本語学校等との連携等が、今後も取り組むべき課題である。

4. 項目毎の記述

(1) 教育理念・目標

	評 価 項 目	自己点検 評価結果
a	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
b	学校における職業教育の特色が明確になっているか	4
c	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
d	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	3
e	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a：「専門性」、「社会性」、「人間性」、そして「国際性」の4つを基軸に定められている。
- b：専門教育はもちろんのこと、「人間力」の育成が本学園の特色として挙げられる。
- c：新型コロナウイルス感染症の拡大により、サービス業の将来を不安視する傾向が各所に見られ、明確な将来構想を抱くことが一時期困難な状況に陥った。
- d：宮城県内の新型コロナウイルス感染者の増加に伴い、数多くの学校行事が中止となったことから、例年に比べて周知する機会が減った。
- e：本学園が重要視している4つの柱に加えて、時代の流れに左右されない「人間力」の育成を最重要項目として掲げることにより、不変的に求められる人材の輩出に貢献している。

②課題及び改善方策

- c/d/e：新型コロナウイルス感染症の爆発的な感染拡大を受けて、これまで当たり前とされてきた業界の常識が様変わりした（例えば、ブライダル業界では、パーティー形式の結婚式からフォトウェディングの人気の高まった）。新しい生活様式の中から見えてきた新しい常識について熟知するとともに、これからのサービス業を見据えた将来構想を築き上げていくことが求められる。

(2) 学校運営

	評価項目	自己点検 評価結果
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
b	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
c	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
d	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
e	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
g	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

a/b/c：「学校法人東杜学園寄附行為」に基づき、本学園では理事会ならびに評議員会を開催し、学園運営を行っている。

e/f：経営方針や事業計画は、評議員会に諮問、理事会で承認決定の上、運営方針を決定している。

d：就業規則他諸規定は、適宜整備及び改定がなされ、学園全体で更なる向上を図っている。

g：教育活動に関する情報公開として、財務情報をHP上に公開している。

h：業務の効率化は常時意識しているものの、求められる内容は年々複雑化している。

②課題及び改善方策

h：教職員の適正配置、明確な職務分掌、及び情報システムの導入等により、計画的な業務の効率化が必要とされている。

(3) 教育活動

	評 価 項 目	自己点検 評価結果
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
e	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
f	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
g	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
h	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
i	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
j	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
k	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
l	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
m	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
n	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a/b/c/d：今年度も引き続き、学科編成及び半期毎のカリキュラムの見直しを実施した。
- e/f/h：関連分野の企業様及び外部関係者のご協力を得て、年1回カリキュラム等の見直しを実施している。また、国際観光学科においては、名鉄観光サービス株式会社仙台支店様にご協力をいただき、インターンシップを実施した。
- g：10項目の質問と自由記述から構成された授業評価アンケートにより、定量的かつ定性的なデータの収集を行い、得られた結果を各担当者へフィードバックする体制を継続している。また、昨年度から学生の満足度向上を目的としたアンケートを年2回実施しており、学生の声を反映でき得る態勢を整えている。
- i：学生を対象とした成績評価、単位認定、及び進級・卒業判定の説明を年3回実施している。
- j：日本語ビジネス学科にて、日本語能力試験（JLPT）に向けてカリキュラムの見直しを行った結果、N1及びN2の合格者を輩出した。
- k/l：関連分野の企業との体系的な連携、そして業界に精通する教員の継続的かつ定期的な確保については、引き続き長期的な課題である。
- m/n：コロナ禍において、これまで定期的に参加していた研修や講座のほとんどが中止となっていたものの、オンラインでの研修等に積極的に参加する必要がある。

②課題及び改善方策

- k/l：現場での実習や定期的な講師派遣等、人材育成目標の達成に必要とされる関連企業との強い結びつきは、依然として大きな課題である。CEP等を利用している学生にとっては、業界の動向に直接触れながら、最先端の知識や技術を吸収出来得る環境にあるものの、全ての学生に平等にその環境が整っているとはいえない。そのため、各学科において関連業界企業でのインターンシップ等を検討する必要がある。今後も、引き続き関連企業との連携強化のために必要とされる方略を模索し続けながら、定期的な教員の確保に努めていきたい。
- m/n：例年参加している研修に加えて、各学科で今後新たに取り入れるべき知識や技術等を意識しながら、日常的に情報収集を重ねることが求められる。

(4) 学修成果

	評価項目	自己点検 評価結果
a	就職率の向上が図られているか	3
b	資格取得率の向上が図られているか	4
c	退学率の低減が図られているか	4
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a：新型コロナウイルスの影響により、旅行業、航空業、宿泊業、及びブライダル業において新卒採用を見送る企業が相次いだ。そのため、従来から継続している個別性を重視したきめ細やかな就職指導を徹底させながら、他業種への切り替え等柔軟な対応に努めてきた。
- b：通常授業、授業時間外での自習室の開放、個別指導、そして土日祝日実施の講座等、今年度も引き続き取得率の向上に努めている。国際ホテル学科においては、ホテルビジネス実務検定ベーシック2級で合格率93.3%（全国平均79.5%）、ブライダルビジネス学科においては、3級ブライダルコーディネーター技能検定で合格率90.0%（全国平均70.5%）、そして日本語ビジネス学科においては、日本語能力試験でN1合格者1名を輩出した。
- c：退学率は全体的に減少傾向にあるものの、新型コロナウイルスの影響によりアルバイトができないといった理由から、金銭的事由による退学者が目立った。
- d/e：卒業後の状況把握については、依然として個別のかつ受動的な対応に留まっている。

②課題及び改善方策

- c：新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で、CEPを含む学生のアルバイト先が見つからない状況に陥った。特に、夜間部の学生にとっては、CEPによる収入が生活費及び学費に直結することもあり、やむを得ず退学を選ぶ学生も見受けられた。また、外国人留学生においては、依然として学納金未納による除籍者が一定数存在している。入学時に経費支弁能力の有無をこれまで以上に細かく確認することが求められる。
- d/e：卒業生の把握については、依然として長期的な課題となっている。本校ホームページ内に卒業生専用ページを開設し、卒業後のキャリア形成に関する情報収集を行う他、職員募集にアクセスできる等、環境の整備を進めていくことが望まれる。

(5) 学生支援

	評価項目	自己点検 評価結果
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
f	学生の生活環境への支援は行われているか	4
g	保護者と適切に連携しているか	4
h	卒業生の支援体制はあるか	3
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
j	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の 取り組みが行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

a/b/e：少人数制、担任及び副担任制、ならびにカウンセラーの常駐等による学生支援は、今年度も引き続き十分な体制が整えられている。

c：従来の支援制度に加えて、今年度から新たに高等教育の修学支援新制度や入学者紹介制度を導入している。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大による家計急変及びアルバイト収入の減少に対する支援策として、学生に一律30,000円を支給するMBC特別修学支援金を給付した。

d：万全な体制のもとコロナウイルス対策を実施したため、外国人留学生1名の感染のみに留まった。

f/g：欠席が続く学生への電話連絡、保護者への連絡、及び自宅訪問等、生活環境に不適應な学生に対してきめ細やかな対応を継続している。

h/i/j：中高生の上級学校見学を積極的に受け入れている一方で、卒業生を含む社会人のニーズを踏まえた教育環境等の確立は、未だ手探りの状況が続いている。

②課題及び改善方策

h/i/j：卒業生、社会人、及び高校・高等専修学校等との連携等を含めた支援体制及び教育環境の確立は、今後も引き続き取り組むべき課題である。

(6) 教育環境

	評価項目	自己点検 評価結果
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
b	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
c	防災に対する体制は整備されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a : 学内施設・設備は、今年度も引き続き必要に応じて適宜整備を進めている。
- b : 新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の海外学科別研修旅行及び国内学科別研修旅行は中止となった。
- c : 災害等による帰宅困難者の発生を想定して、学生全員に配布できる水、そして学内宿泊者に対する一部食糧と寝袋を準備している。

②課題及び改善方策

- a : 校舎竣工後25年を経過していることから、長期的な視野に立った大規模修繕計画が必要である。
- b : 学内実習室の設置及びインターンシップの実施については、全学科で取り組むべき課題である。
- c : 防災体制については、今後も定期的な見直しや改善が求められる。複数の防災危機管理者の配置、防災備品の整備、及び避難訓練の定期的な実施等を含めて、引き続き努めていくことが求められる。

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	自己点検 評価結果
a	学生募集活動は、適正に行われているか	3
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
c	学納金は妥当なものとなっているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a : 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来校型オープンキャンパスの中止を余儀なくされた状況下において、新たにオンライン個別相談会やテーマ別オープンキャンパスを開催し、自宅でも進路活動が可能となるよう体制を整えた。
AO 入学においては、エントリー条件の緩和、エントリー期間の延長、及びオンラインでの面接を導入し、高校生にとって不利な状況の発生を防止した。
また、今年度はテレビ CM の放映を行い、認知度の向上に努めた。
- b : Instagram のライブ配信や YouTube の動画配信など、SNS を積極的に使用している。
- c : 同地域及び同分野の他校の学費を参考にしながら、適正な学納金を設定している。

②課題及び改善方策

- a : 「募集＝営業」という意識改革を行ってきたものの、旧態依然とした受け身体質の募集活動が続いていた。競合校をリサーチし、データ化した情報を共有し、募集活動を活性化させる必要がある。
- c : 学納金は妥当であるものの、競合校との差別化を図るため、HP やパンフレットでの学費の見せ方に工夫が求められる。

(8) 財務

	評価項目	自己点検 評価結果
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制整備はできているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a：評議員会の諮問及び報告を経て、年度予算等の財務状況を確認し、理事会の承認を得て決定している。コロナ禍における今年度は、外部団体への教室貸出に積極的に着手した。
- b：今年度も継続して、収入予算の細かな予測、そして支出の状況把握を実施している。
- c：会計監査は、引き続き公正かつ適正に行われている。
- d：資金収支計算書、事業活動収支計算書、及び貸借対照表を本学園 HP 上で公開している。

②課題及び改善方策

- a/b：新型コロナウイルスの影響により、サービス業に対してネガティブな印象を抱く高校生が今後増加することも予想される中で、継続的に学生を確保することは容易なことではない。常に市場を見据えながら、適宜効果的な広報戦略を実践することが、今後の大きな課題である。

(9) 法令等の遵守

	評価項目	自己点検 評価結果
a	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
c	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
d	自己評価結果を公開しているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a：設置基準をはじめとする規則及び法令について、今年度も適切に対応している。
- b：個人情報保護規定を整備し、職員へ就業規則と共に周知し、適切な運用を行っている。
マイナンバーについては、管理責任者を定め、着任及び退職時に適切な取り扱いを実践している。
入学案内書等に掲載する際の在校生及び卒業生の個人情報の取り扱いについても、趣旨を説明の上、承諾書を受け取り、引き続き適正な処理が施されている。
- c：自己評価の結果を、学校関係者評価委員会より評価いただき、今年度も適宜改善に着手している。
- d：本学園 HP 上で公開している。

②課題及び改善方策

- a/b/c/d：短期的な問題に対する改善は、迅速に対応しているものの、中長期的な視点に立った問題については、対応が継続しているものも存在する。改善点を再度検討すると共に、具体的な方略を導き出すことが今後も求められている。

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己点検 評価結果
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
c	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

a：各種検定試験、国家試験、そして入学試験等、今年度も引き続き受験会場として教室の貸し出しを行っている。レストランサービス技能検定学科試験、及びサービス介助士講座については、学生の専門的知識及び技能の習得に留まらず、社会貢献の面においてもその責務を果たしている。

また、今年度は通信制高校のスクーリング会場として、定期的な貸出を行った。

b：ボランティア活動として毎年実施していた献血活動及び清掃活動は、新型コロナウイルスの影響により、清掃活動のみの実施となった。

c：公開講座等は依然として実施していない。

②課題及び改善方策

c：職業教育としての教育機関のみならず、地域社会に向けた広義での教育機関として本学園の在り方を検討することは、今後の大きな課題である。本学園設置学科の特色を生かし、どのように知識や技術を地域社会へ還元していくのか、具体的な方略を模索する必要がある。

(11) 国際交流

	評価項目	自己点検 評価結果
a	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
b	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
c	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
d	学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①状況

- a : 仙台市内の日本語学校との関係性構築が功を奏し、今年度も大幅な入学者増に至った。しかしながら、発生ベースでの対応は今年度も継続しており、戦略的な受入れ体制の整備には大きな課題が残る
- b : 在籍管理等は、職員間で連携を図りながら適切に行われているものの、学費納入管理に多くの時間と労力を要する現状にある。また、長期欠席等で連絡がとれない学生に関連する業務については、組織で対応し得る体制が整っていない。
- c : 今年度より学科担任の他に副学科担任を配置することで、これまで以上に留学生の学修・生活指導等について適切な体制が整備されている。
- d : 新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大を受けて、総合英語学科で1年次に毎年実施していた約4ヶ月間の海外留学を次年度へ延期した。海外留学を経験した2年次学生については、今年度も英語スピーチコンテストへの参加を促し、学内選考後に1名が本学園代表として全国大会へオンラインで出場した。

②課題及び改善方策

- a : 年々増え続ける外国人留学生の入学について、体系的な受入れ体制の確立は早急に取り組むべき課題である。日本語能力及び経費支弁能力について、これまで以上に厳しい基準を設けることが、体制強化のみならず、戦略的な広報活動の展開にも繋がると考えられる。
- c : 学科担任及び副学科担任による学習・生活指導等は、今年度十分な成果を得ることができた。今後は、多岐に渡る留学生の対応について、より多くの職員で適切な対応ができる体制を整えることが求められる。
- d : 総合英語学科及び日本語ビジネス学科は、学修成果が評価される環境が重要である。